

第3次草津市環境基本計画 重点事業取組状況

重点事業	1.いきもの自然学校（本編p.29）	2.地域資源健幸ラリー（本編p.30）	3.環境イノベーション（本編p.31）
事業概要 （計画抜粋）	自然と人のふれあいや自然観察等、総合的な環境が学べるモデル地域を設定し、「いきもの自然学校」において、環境の保護や保全について推進する、多様な主体で推進に関わる人材の育成を図る。また、自然を題材として、心と体の健康を育むとともに、生きがいを感じられる取組を推進する。	地域資源（自然、歴史文化、食、産業等）を巡り歩きながら、自然と人との関わりについて学び体感し、環境保全の意識の向上および地域資源の維持管理や継承の行動につなげるとともに、誰もが生きがいをもち健やかで幸せに暮らせる「健幸都市くさつ」を推進する。	環境配慮型製品やサービス等を導入しようとする市内中小企業者等がその研究や開発に当たって不足する知恵・技術の習得や、実証実験場所を確保するため、それらを有する事業者等を募集し、連携・協力をしながら、環境イノベーションの創造を図り、その内容について周知を行う。
最終目標 （最終年度）	○2つのモデル地域を設定（例 湖岸地域、山手地域） ○地域資源や既存の取組を活用し、地域の生物多様性について、体系的に理解できる環境学習プログラムを展開し、環境に資する取組の実践者やその取組を支援する人材を育てる。 ※生物多様性は専門性を有し、市民が簡単に取り組めるものではないため、体系的に理解できるプログラムを設定し、そこで市民が学び、他方に広げていく必要がある。 ○モデル地域において経験を積まれた方に講師となっていただく。 ※専門性を学んだ人のみならず、地域の高齢者や農業生産者等にも参画いただく。	○14箇所のモデルコースの設定（各地区に1つを想定） ○各地域で自然健幸ウォーキングやサイクリングツアーが実施される。 ○地域資源の維持管理と活用が適切に実施されている。 ※自然環境保全地区をはじめとした地域資源の維持管理は、地域やボランティアの方が中心となった取組が多く、昨今、メンバーの固定化により高齢化が顕著となっており、代替わりが進んでいない事例が多い。地域資源の活用を通じ、地域資源の維持管理が持続可能な仕組みとして成り立つ。	○事業者のマッチング制度の設計・運用 ○マッチング制度による環境配慮型商品やサービスの創出 ○創出された環境配慮型商品やサービスが市内・全国で導入される
計画 スケジュール	R3 R4 R5 R6 R7 R8 R9 R10 R11 R12 R13 R14 準備 展開 モデル地域 A 準備 展開 モデル地域 B	R3 R4 R5 R6 R7 R8 R9 R10 R11 R12 R13 R14 準備 展開 準備 展開 準備 展開 準備 展開 準備 展開 準備 展開 ※2年毎におおよそ2箇所、計14箇所のモデルコースを設定・展開を行う。	R3 R4 R5 R6 R7 R8 R9 R10 R11 R12 R13 R14 準備 展開
R4年度 実績と成果	【実績】モデル地域2学区（志津、笠縫東） 志津学区 ○志津里山自然学校プログラム ①「森に小道をつくろう」実施（5月） ②「ホタルと友だちになろう」実施（6月） ③「みんなで伐採にチャレンジ！」実施（10月） ④「学んで料理して楽しもう」実施（11月） ⑤「みんなで薪作りにチャレンジ！」実施（12月） ⑥「マイツリーを植えてみよう」実施（3月） ○外部講習：木と学ぼう（プロジェクト・ラーニング・ツリー講習会）（大阪市） 笠縫東学区 ○笠縫東いきもの自然学校プログラム ①「ほたるフェスタ」実施（5月） ②「葉山川いきもの調査」実施（9月） ③「草花観察会」実施（10月） ○外部講習：自然の見方 インタープリター入門（大阪市） 【成果】 ○既存の地域の取組を活用し、自然と人のふれあいや自然観察等の体験を中心とした環境学習プログラムを検討し、予定していた取組を、地元と連携して実施することができた。	【実績】モデルコース設定学区（玉川学区、山田学区、笠縫東学区、常盤学区） ○やまだウォーク「急がば回れ再発見！！」を実施（6月） ○玉川地域資源健幸ラリーを実施（10月） ○笠縫東地域資源健幸ラリーを実施（11月） ○歴史の町ときわ みんなで歩こう会を実施（11月） 【成果】 ○地域において、地域資源の掘り起こしを行い、自然環境保全地区等をめぐるコースを設定し、ウォーキングイベントを実施いただいた。 ○コース設定や、自然環境保全地区の説明等の支援を行った。	【実績】 ○エコフォーラムにて掲示物による事業周知を実施、アンケートによるニーズ調査を実施。 ○先進地における事例等の情報収集を行った。 【成果】 ○令和5年度のセミナー開催に向け、情報収集を行うことができた。
今後の課題 および 改善策	○環境学習プログラムを実践し、評価と再構成を行う。 ○事業の推進に関わる人材の育成を行うため、いきもの自然コーディネーター候補の外部講習会への参加を促す。 ○地域主体で実施できるよう段階的に取組む。	○令和6年度展開に向けて新たに2学区の選考を行う。 ○順次各学区と地域資源についての協議を重ね、モデルコースを設定する。 ○令和4年度設定学区について、新たなコース設定の支援を行う。 ○学区間でモデルコースを共有し、地域住民の交流の機会を増やす。	○草津商工会議所と連携してセミナーを実施する。 ○セミナーやアンケート結果を踏まえ、環境には配慮した製品を創出するうえで市が求められていることを調査したうえで、あらたな制度設計を行う。 ○現在、県や市が行う補助等をまとめ、事業所へ紹介を行う。